

はじめての

万葉集

[vol.51]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します



真幸くあらば



磐代の浜松が枝を 引き結び 真幸くあらば また還り見む

詠

磐代の浜の松の枝を結び合わせて無事を祈るが、もし命あつて帰路に通ることがあれば、また見られるだろうなあ。

有間皇子 巻二 一四一番歌

この歌の作者である有間皇子は、孝徳天皇の子でした。孝徳天皇は大化元年(六四五)に即位しましたが、乙巳の変の中心人物である中大兄皇子の傀儡であつたともいわれます。『日本書紀』には、白雉四年(六五三)に中大兄皇子が難波長柄(とよさきのみぎ)豊碓宮から飛鳥へ還ることを提案した際には、承諾しなかつた孝徳天皇を残して皆が飛鳥へ移つたことが記されています。翌年、孝徳天皇は崩御しました。

有間皇子は、一部から次の天皇として望まれていたともいい、実権を握る中大兄皇子にとっては邪魔な存在であつたとみられます。中大兄皇子を警戒した有間皇子は、「陽狂」つまり狂気をよそおつたということとです。その「陽狂」が牟婁温湯(和歌山県西牟婁郡白浜町)を訪れたことで完治したと報告したところ、既に即位していた齊明天皇も牟婁温湯へ行幸することとなりました。

天皇の留守の隙にと、有間皇子に謀反を唆したのが留守官であつた蘇我赤兄です。齊明天皇四年(六五八)十一月二日に、重税を課し狂心渠などの大規模な土木工事を相次いで行つていた天皇を批判して、挙兵を勧めました。しかし、謀反を決意したその日に有間皇子は謀反人として捕まります。陥れられたことを悟り、尋問の際には「天と赤兄と知らむ。吾全ら解らず」と答えたとあります。結局、有間皇子は護送中に藤白の坂(和歌山県海南市)で処刑されました。まだ十九歳の若さでした。

この歌はそんな有間皇子が死を予感しながら詠んだ悲劇的な歌として、挽歌の冒頭に位置付けられています。本来は旅の無事を祈る内容であり、有間皇子に同情的な人々によつて一種の歌物語が形成されていったのではないかとみられています。

(本文 万葉文化館 井上さやか)

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に
関連するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん

狂心渠

齊明天皇は、石上山の石を切り出して後飛鳥岡本宮の東の山の石垣に用いたとされ、大量の石材を船で運ぶために、石上山と飛鳥を結ぶ運河を掘らせました。工事には3万人余を要したとされ、大規模な土木工事に呆れた当時の民衆から「狂心渠」と非難されました。

正確な位置はわかっていませんでしたが、現在の飛鳥坐神社(明日香村)の近くに、狂心渠の一部とみられる溝が発掘されました。この溝は発掘調査後に埋め戻され、現在は休憩所になっています。



明日香村文化財課
☎0744-54-5600
FAX0744-54-5602

県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX0742-22-6904